

青丘文庫研究会 月報 No.264

2012年11月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
①在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)
②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000 円
※ 他に、青丘文庫に寄付する図書購入費として 2000 円/年をお願いします。

<巻頭エッセイ>

共在の場を考える研究会

本岡 拓哉

2011 年以来、「共在の場を考える研究会 (共在研)」に参加している。この研究会は、移民や難民、在日外国人問題を研究している稲津秀樹さんと野上恵美さん、そして山本晃輔さんが 2010 年に立ち上げたものである。都市空間の流動性や多様性について関心を向ける、社会学や文化人類学、教育学、都市史、地理学などを専攻する若手研究者が集まり、関連するテーマの勉強会や共同研究が実施されている。とりわけ、近代の都市化によって、様々な人々が共在する場となった神戸長田が共同研究のターゲットとなっている。私自身、長田で生まれ育ったこと、そして長田の中心部を流れる新湊川沿いにかつて存在した「大橋の朝鮮人部落」に関する研究経験を踏まえて、積極的にこの共同研究に携わっている。

神戸長田は、工業化の時代に、日本の様々な地方からの出身者、そして奄美諸島や朝鮮半島からの人々を労働力として吸収してきた。その後、ゴムやケミカルシューズなど独特の工場地区、そして多くの場所に商店街が形成され、かれらの多くが長田を生活の拠点とした。近年では、多くのベトナム出身者たちも長田に定住している。こうした多様な集団・個人は、様々な時代、局面において個別に生活を行なっていただけでなく、時には対話や協力したり、あるいは対立したり、すなわち、何らかのかたちで共在していたわけである。それが多かれ少なかれ、長田独特の「まち」を構成していたとも言える。

しかし、長田の共在状況にはこれまであまり注目が集まっていなかったように思われる。たしかに、特定の集団に関する状況については個別に研究が進められてきたが、対象以外の集団は看過されることが多かった。また、震災以降には多文化共生の現場として長田に関心の目が向けられたが、そこでは「マジョリティー・マイノリティー」といった二項対立的な関係に光が当たることで、多様な集団や個人の主体性が捨象されてしまったようにも思われる。

そうした課題を踏まえ、研究会のメンバーは改めて、長田の「まち」のリアルに迫るべく、時代や場所設定は違うが、それぞれの対象について地道に調査し、そしてその結果について研究会の場で語り合い、さらには近現代の様々な位相における長田の「共在誌」を描くプロジェクトを実施している。2012 年 3 月には、中間報告書という形で『まちかどの記憶とその記録のために—神戸長田から／へ—』を刊行した。本書は、長田に関わる多様な人々の記憶／足跡を題材に、試行的におこなった「共在誌」である。研究会内外 16 名が執筆に関わっている。出来れば多くの皆さんに本書を読ん

でいただき、私達の議論に加わっていただければ、またご協力いただければ幸いです（お問い合わせは、共在の場を考える研究会 kyouzaiken2012@yahoo.co.jp まで）。研究会自体は不定期でポチポチやっている状態であるが、引き続き、神戸・長田を舞台に議論の場を設定するつもりである。

第335回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（2012年7月8日）

1951年 東京朝鮮人中高級学校事件 —戦後の布施辰治と朝鮮人《その1》—

大阪大学大学院言語文化研究科 研究生 川口祥子



布施辰治(1880～1953)は、戦後弁護士資格を回復すると再びその没年まで在日朝鮮人に関わる数多くの事件の弁護を行っており、遺族から朝鮮大学校へ寄贈された「布施辰治弁護関係資料」からもその一端を知ることができる。東京朝鮮中高級学校事件もその資料のなかのひとつである。

1948・49年のアメリカ占領軍・日本政府による朝鮮学校弾圧に対して、東京の朝鮮学校はその存続のために都立化(小学校12.中学校1.高校1)という苦渋の選択を強いられた。都立という同化教育体制のなかでも、朝鮮人教員と保護者によって民族教育を維持するための懸命の努力が続けられたが、朝鮮戦争中の1951年2月と3月に米軍政部と日本政府当局による都立朝鮮人中高等学校への武力弾圧が行われた。

それを『警視庁史』はこのように記している。

〈2月23日占領目的阻害文書を所持した都立朝鮮人中・高校の生徒を検挙し調べたところ、同校内で印刷していることが判明したので、2月28日早朝に同校の捜索を実施し多数の印刷物を押収した。翌日、それを不当として朝鮮人が抗議に押しかけ、3月7日同校において「真相発表大会」という無届集会が開催された。主催者に対し大会中止を勧告したが応じずに集団暴力行動を行ったので実力で解散させ首謀者を逮捕した。〉

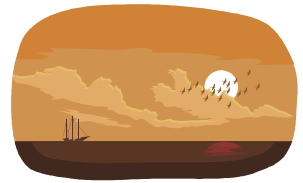
3月7日約700名の警官が出動し校内に突入した際、多くの生徒・教員以外にも取材中の日本映画社カメラマン松本久弥も警棒で頭を殴られ重傷を負った。松本は翌日、事件に関する一切を布施に委任した。3月中・下旬の国会法務委員会では上村進、羽仁五郎らがこの事件を取り上げ、報道の自由の侵害と警官の暴力行為を追及し、ついで4月27日には暴行した警官を刑事告発している。

しかし警視庁は警官の暴力を認めない姿勢であるので、同年11月に東京都と警視総監田中榮一を相手に「謝罪状及びこれに附帯する慰謝料請求」という民事訴訟を提訴することになり、数回の公判が開かれた。

しかし結局この裁判は1960年に取下げられている。裁判の中心人物である布施が1953年に病死し、原告松本久弥自身も1956年事故死したこと、さらに警官の暴行を立証するのは非常に困難なことなので、敗訴の判例が出るのを避けるためにも取下げることにはしたのではないかと推測される。

布施は1948年「4.24 阪神教育闘争」時、「朝鮮学校事件真相調査団」の一員として朝鮮人学校に対する文教政策の間違いを指摘する報告書を作成し、「4.24 阪神教育闘争」神戸事件軍事裁判の弁護において、“民族の文化を尊重することは国語を尊重することである”と真正面から朝鮮人学校閉鎖命令の不当を論じている。そして3月7日の事件に至るまで、継続する朝鮮人学校への蹂躪に対しては片時も目を離すことはなかっただろうと思われる。

警察の社会的責任を明らかにするために、「警視総監の謝罪広告」という実現困難な要求を掲げて立ち向かう強い姿勢からは、サーベルから警棒に代わっても民衆に対して高圧的な態度を取り続ける戦後の警察制度とそれを体現する田中警視総監に対する不信感とともに、朝鮮人への相次ぐ弾圧に対する布施の激しい憤りが感じとられる。



＜新刊案内＞

『在日朝鮮人史研究』42号(2012.10) A5、304頁、2520円

＜古庄正先生追悼号＞

- ・ 国家と人種の境界を越えた比較研究とその意義——一九二〇年から一九四五年までの大阪朝鮮人コミュニティとシカゴ黒人コミュニティの経験を中心として— 堀田千里
- ・ 一九二〇—一九四五年、多さは東成地域における朝鮮人の生活と鶴橋署 塚崎昌之
- ・ 日本帝国の解体と朝鮮人「内地留学」の終焉—戦後直後・朝鮮人留学生政策を中心に— 朴成河
- ・ 常磐炭田朝鮮人戦時動員被害者を訪ねて—韓国での調査報告から 龍田光司
- ・ 茨城県・関本炭砒朝鮮人鉱夫の解放前後の状況—会社文書を中心に 長澤 秀
- ・ 一九五一年 東京朝鮮人中高級学校事件—戦後の布施辰治と朝鮮人《その1》 川口祥子
- ・ 元農耕勤務隊黄敬チュン(馬へんに春)史のインタビュー 秋岡あや/鈴木久美
- ・ 資料紹介『昭和十一年中二於ケル山梨県特高情勢』 鮎澤 讓
- ・ 書評 出た Erin Aeran Chung, Immigration & Citizenship in Japan 松田利彦
- ・ 追悼・古庄正先生 山田昭次/姜徳相/今里幸子/北原道子/金廣烈/木村健二/鈴木久美/龍田光司/飛田雄一/羅基台/吉澤文寿/樋口雄一
- ・ 会の記録(2011.9~2012.7)

※在日朝鮮人運動史研究会関西支部の会員は、会費が5000円/年で、雑誌3冊をお渡しすることになっています。会員の方には、発送しました。「会費を払ったのに雑誌が届かない」という方は、飛田 hida@ksyc.jp まで連絡をよろしくお願ひします。また、雑誌が着いたのに2012年度の会費(5000円)を払っていないという方は、研究会の時に会費担当の堀内さんにお支払いいただくか、下記郵便振替に送金をよろしくお願ひします。郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>



＜セミナー案内＞

(1) 天皇制を考える講演会

日時：2012年11月23日(金)午後2時から

会場：神戸学生青年センター/講師：裴 富吉(ペエ・プキル)さん

参加費：1000円/共催：はんてんの会、神戸学生青年センター

(2) 朝鮮史セミナー2012 秋

1) 11月8日(木)午後7時

『ひょうごの古代朝鮮文化—猪名川流域から明石川流域—』講師：寺岡洋さん(むくげの会会員)

2) 11月22日(木)午後7時

『鉄路に響く鉄道工夫アリラン—山陰線工事と朝鮮人労働者—』

講師：徐根植さん(兵庫朝鮮関係研究会代表)

3) 12月6日(木)午後7時

『韓流ブームの源流と神戸』講師：高祐二さん(兵庫朝鮮関係研究会会員)

・参加費、各600円/・会場・主催はいずれも神戸学生青年センター

(3) NGO神戸外国人救援ネット勉強会

11月17日(土) 「労働問題」四方久寛弁護士/参加費：500円/会場：神戸学生青年センター

(4) 神戸・南京をむすぶ会 <http://ksyc.jp/nankin/>

南京大虐殺幸存者証言集会/12月12日(水)18:30/会場：神戸学生青年センター

/参加費：一般1000円、学生500円

(5) 写真展「七十五年の記憶～幸存者の肖像～」

日時：2012年11月18日(日)～25日(日) 9:00～22:00 (最終日は17:00まで)

場所：神戸学生青年センター ロビー、入場無料

トークセッション/日時：2012年11月25日(日) 13:30 開演 (13:00 開場)

場所：神戸学生青年センター ホール/定員：70名

参加協力費：1,000円/主催：DAYS JAPAN 関西サポーターズクラブ

お問合せ・お申込み先 TEL 090-8539-7021 e-mail v-kansai@daysjapan.net

後援：神戸学生青年センター、神戸・南京をむすぶ会

(6) フォトジャーナリスト 村山康文写真展 The Beautiful Flowers

～日韓越、60人の女子学生と迎える3ヶ国の近現代史～

日時：11月8日(木)～15日(木) 9:00～20:00/場所：神戸学生青年センター

●青丘文庫研究会のご案内●

■朝鮮近現代史研究会は、お休みです

■第337回在日朝鮮人運動史研究会関西西部会

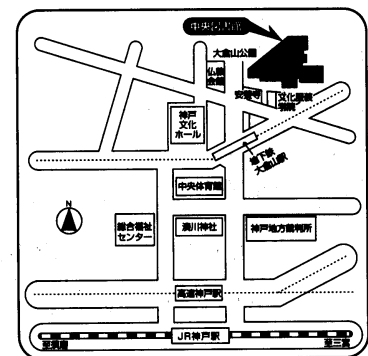
2012年11月11日(日) 午後3～5時

「1950～60年代における「外国人学校制度」創設の試み」

マキエ(藤原)智子(北海道大学大学院)

※会場 神戸市立中央図書館内

青丘文庫 TEL 078-371-3351



【今後の研究会の予定】

12月9日(日) 在日(塚崎昌之)、近現代史(未定)。2012年1月13日(日) 在日(李杏理)、近現代史(未定)。研究会は基本的に毎月第2日曜日午後1～5時に開きます。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】

12月号以降は、高野昭雄、李景珉、李裕淑、小野容照、梶居住佳広、中川健一、黒川伊織、砂上昌一、三宅美千子、佐野通夫、吉川絢子、安致源、伊地知紀子、太田修、高正子、坂本悠一、全淑美、足立龍枝、渡辺さえ、池貞姫、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。



【編集後記】

- ほんとに暑い夏でしたが、やはり、秋はきました……。みなさんいかがお過ごしでしょうか。
- 月報10月号は休ませていただきました。研究会は、10月14日(日)、「『韓国人研究者』による在日コリアンの民族教育研究—『語られないもの』としての朝鮮学校』(岩波書店、2012年6月)を中心に」宋基燦、が開かれました。

飛田雄一 hida@ksyc.jp